

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4075500431		
法人名	社会福祉法人宮田福祉会		
事業所名	照陽園グループホーム		
所在地	福岡県宮若市磯光2159-1		
自己評価作成日	平成22年 9月10 日	評価結果確定日	平成 22年 10月 21 日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kai_gosi_p/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートうりずん
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号
訪問調査日	平成 22年10月 5 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の方にとって 居心地良い環境づくりと、日々の生活を通して、おいしく食べているか、よく眠れているか、排泄はきちんと出ているか、を基本に職員は健康管理をしている。健康が維持されることにより、園での生活が楽しく暮らせることを念頭にその人らしい生活援助ができることを目標としている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

静かな山間に位置する特別養護老人ホームに併設された2ユニットのホームで、法人主催の夏祭りに参加する地域住民も多く、山量の休憩地点になったり、みこしの訪問などで、地域に馴染みある事業所である。開設から7年が経過し、重度化に直面しているが、活発に昼食準備に参加するなど入居者の役割も維持され、リビングに設けた書斎コーナーで書き物をする入居者に介護計画の実践が理解できる。今年は1名の入居者を看取り、終末期のケアの重要さと職員・家族の戸惑いを経験し、ホーム理念を体感している。今後も、家族を巻き込んだ介護計画の実践が出来る事業所として期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

ユニット/
事業所名 **照陽園グループホーム Aユニット**

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームの理念を見やすいところに大きく掲示し、毎朝勤務者一同で唱和することで入居者と共に生きていこうを実践し、職員もホームの理念を自分の言葉で語ることができる。職員は笑顔を決やさず寄り添うことで安心して過ごしてもらうよう支援している。	やさしさと思いやり、生活暦の尊重、地域との交流や介護計画に沿った介護などを理念として掲げている。職員は地域で生活することを支援することが理解できているが、入居者や家族に分かりやすく簡素化するように見直しを検討している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事、草刈、敬老会に参加。法人で行う夏祭り、餅つきに参加してもらう等お互いに行事を通して、地元との交流を深めている。	保育園の慰問や踊り・読書ボランティアの訪問など積極的に受け入れている。ホームの駐車場を地域の山笠の休憩地点に開放したり、青年団のみこしのお披露目などが恒例となっている。法人全体で地域住民の介護予防教室を開催している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方を1日招待して、介護保険について、管理栄養士による栄養講座、看護師による健康チェック等を行なっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヵ月毎の開催で、ホームの活動状況、外部評価の結果や改善項目、処遇困難事例の検討等話し合っている。安全な外出支援の工夫等出された意見について議事録に整備し、ホームの運営に活かしている。	運営推進会議には知見者や老人福祉課職員、入居者家族、民生委員などの参加があり、ホームの困りごとの相談や状況などを相談できる場に活用している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議のメンバーの一員である市職員を通じ、協力関係を築くよう取り組んでいる。	運営推進会議の参加以外に市職員の訪問はないが、居室の空き状況の報告や後見制度の活用について相談に出向き、連携を取っている。地域包括支援センターを中心とした「徘徊ネットワーク」に参画している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	転倒防止として危険物の除去、ベットから転落防止としてベットの位置を低くする、トイレに行きやすい位置に設置するなど身体拘束をしないでよい工夫をしている。	契約書に身体拘束を行わないことを明記している。窓や玄関は夜間以外は施錠していない。玄関にはセンサーを取り付けており、鍵をかけずに過ごせるように工夫している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	新年度の第1回目の会議において、倫理規定を読み直し、言葉使い等目に見えない行為についても再確認し防止に勤めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度の勉強会に参加し、研修内容を職員に伝達している。入所時本人や家族に成年後見人制度の説明を行っている。	入居時に成年後見制度について説明し、記録を整備している。法人全体で、成年後見制度について研修を行っている。今の所活用に至ったケースはない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては、重要事項説明書をもとに十分な説明を行いご理解。納得をいただいている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常に利用者の家族等の意見が聞けるよう玄関にご意見箱を設置、特に行事時に家族と懇談しながら意見を聞き、運営に反映させている。	意見箱には具体的な意見の投書はない。家族訪問時や行事の際に家族に意見を聞くように留意している。ホームの食事内容について、栄養バランスを知りたいと家族より希望があり、管理栄養士の助言を得ながら説明している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回管理者は職員と個人面接を行い意見等聞き、運営に反映させている。	毎月のミーティングで、職員の気づきや意見を聞くようにしている。入居者の活動量を増やす為に、午前中に入浴時間を設けることやユニット毎に行事を行うなど、具体的な職員の提案を運営に取り入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務シフトを組むときに休暇の希望を聞き、休める工夫をする。資格取得のための研修等をするなど配慮している。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職安、求人募集に際して特に採用基準は設けていない。新規採用の職員に対しては、職場の環境、介護知識を得るための指導等を行い生き生きと働けるよう配慮している。	採用後、資格習得に向けて支援している。県社会福祉協議会や地域のグループホームで立ち上げた「GHみやわか」の研修会に参加している。年に2回健康診断が実施され、就業規則が整備されている。職員の休憩室があり交代で休憩をとる様にしている。	代表が参加した外部研修内容は回覧するだけでなく、毎月のミーティング等を活用して伝達講習をお願いしたい。
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	毎年年度当初の全体会議において全職員対象に倫理規定のもと人権教育を行っている。	高齢者虐待防止マニュアルを整備し、研修を行っている。契約書に利用者の権利として、尊厳や身体的精神的拘束を受けないことを明記している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内年間研修計画の下、研修を行っている。外部研修の研修後は、申し送りなど受講内容を伝達している。特養との併設施設であるので、介護技術等の研修は特養のベテラン職員が指導する。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	宮若市グループホーム協議会で毎月1回交流を行い、勉強会を設け、相互間の活動を通じて、情報交換やサービスの質の向上に努めている。又職員間の交流会にも参加し親睦を図っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所1ヶ月は、環境の変化でどなたも戸惑いがあるため、常に職員が寄り添い、信頼関係に努力している。入所前のケア会議、入所2週間後のケア会議のもと職員の介護の統一を図っている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期に限らず、面会時等を利用しながら家族とのコミュニケーションをとっている。又、初期段階で状況の変化等少しでも見られた場合、電話等でお尋ねするなど関係作りに努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前のケア会議でどのようなサービス利用が必要か見極めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の方の知恵をお借りできる漬物漬け等共に暮らしている関係を築く努力をしている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と共にできる行事、餅つき等を通して、共に本人を支えていく関係に努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所前に飼っていた犬に会いに行く、出身地域の敬老会に参加するなど関係が切れないよう支援に努めている。	入居者の友人がホームに訪ねて来られたり、家族と温泉に旅行に出かける入居者もいる。飼っていた犬のえさを買いに職員とスーパーに出かけ、愛犬に会うのを楽しみにしている入居者もいる。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共通の趣味同士でグループ活動をするなど気の合った人がお互いで支えあっているよう努めている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時には必ず声かけを行い必要なときはご相談くださいと支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に、状態観察を行いながら訴えができない方の希望、意向の把握に努めている。	包括的自立支援プログラムを活用し、家族構成や生活歴など担当制にして把握しやすいようにしている。日々の記録に気づきを記入することで思いや意向の把握に努めている。	把握した職歴や生活歴のアセスメントが現在の生活に活用するための研鑽を期待します。
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の面接でその人の生活歴等を聞き、サービス提供の糧にしている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その人の能力、心身状況を把握し、ケアプランを立案、見直しをしながら現状の把握に努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケア会議には必要な関係者と話し合い、現状に即した介護計画を作成している。	担当者会議に家族の出席があり、介護計画を主治医、入居者、家族、職員で共有できる仕組みを整えている。経過に沿ったモニタリングが実施されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別介護日誌をもとに職員間で情報を共有し実践や介護計画の見直しに活かしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の宿泊施設はないが、遠方からの家族の来園の際は、利用者の部屋にて泊まれるよう援助しゆっくり利用者と家族が過ごせるよう、柔軟なサービスを提供している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方々とのつながりを大切にし、安全に暮らせるよう努力しているが、本人の心身の力を発揮できるようなどこまでできていない。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望を聞きながら、適切な医療が受けられるよう支援している。	受診は殆ど職員で対応している。各病院の受診ノート、訪問診療の医師との往診ノートで情報を共有している。受診結果は家族に報告している。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の健康チェックで本人の健康状態を把握し異常が見られたら主治医の指導の下、利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院によっては、家族でないと情報が得れない場合があるため、入院時は、家族と常に病状を聞きながら、病院のソーシャルワーカーと連携を取っている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所の時点で重度化、終末ケアについて説明を行うが、実際に重度化された時に更に説明を行っている。	今年は入居者1名をホームで看取り、ホームで葬儀まで行った。最後は家族に感謝されたが、家族の心の揺れやホーム職員として医療に委ねなくていいのかなどの心の葛藤があり、看取りの難しさを感じている。今後ケース検討を重ねていきたいと考えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応のため、必ず年1回消防署の方の指導で心配蘇生術の勉強会を行っている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回昼夜の避難訓練を行い、利用者がスムーズに避難できるよう訓練を行い、地元消防団の協力も得ている。	年に一回、心肺蘇生の勉強会を地域住民と一緒にやっている。今年は法人全体で地震後の火災発生との想定で避難訓練を行った。スプリンクラーを整備し、食料・水などの備蓄がある。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報の保護について入居契約書や職員契約書に明記している。管理者は、入居者・家族に個人情報の利用目的について説明し同意を得ている。処遇会議で常に言葉使いや尊厳の気持ちを持つこと指導している。	個人情報の利用目的をホームに掲示し、プライバシー保護や人権に関する研修を行っている。職員は入居者のペースに合わせた援助を行い、声掛けのタイミング等に配慮されている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活を通し常に本人の希望を聞きながら支援しているが、特に訴えのできない方の表情、行動を把握することで支援を行っている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	決して無理強いせず、お一人お一人の状態に合わせてその人のペースに合わせて支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時、整容等支援し、化粧ボランティアを要請しおしゃれができるよう支援していく。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者にとって一番の楽しみは、食事であるので、テーブルを囲んで調理できる手作りおやつ等計画盛り付け、片付けも職員と共に行っている。	入居者が張り切って、下膳や茶碗洗いなど行っている。毎日の食事は法人全体で作られているがご飯は各ユニットで炊く様にしている。梅干つくりや月に一回の手作り昼食では真剣な表情で協力しながら行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士のもと各自体重、身長を定期的に測定しその人に合ったカロリーが摂取できるよう配慮している。水分量は1日の摂取量を記録し、脱水に注意している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア支援を行い、時には歯科衛生士の指導を受けている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを把握し、排泄誘導を行い排泄の自立支援を行っている。	職員の綿密な観察で排泄が自立し、オムツはずしに成功した入居者もいる。居室にトイレがあり、夜間ふらつきのある入居者は夜だけベッドをトイレそばに近づけるなど工夫している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の記録と共に、便秘傾向の人には水分、食物繊維の摂取に努めている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	個々人の希望に沿った入浴時間ではないが、2ユニットであるので、各ユニットの入浴日を交互にすることで毎日の入浴を可能にしている。	季節ごとにゆず湯や菖蒲湯で楽しみが持てるようにしている。入浴拒否のある入居者には声かけを工夫している。個浴での入浴が困難になった入居者には併設法人の機械浴を活用している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣、その方の身体的状況を常に把握し、休息等安心して暮らせるよう支援している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	月2回の受診のもと、主治医の指導のもと服薬管理を行っている。状態が変化すればその状態を主治医に確り伝え服薬管理を行っている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味活動の助長、特にカラオケの好きな人の発表の場を併設特養と合同で行う行事等で設定している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	重度化で外出支援が限られているが、買い物、四季折々の花見と極力努力している。なかなか地域の人々の協力は得られていない。	毎週、日曜日に買い物に出かける他、ホームの周辺を散歩し、短時間でも戸外に出て、気分転換できるように支援している。普段、静かに過ごす入居者が、栗拾いで本領発揮され、生き生きとした姿に職員が驚いている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知による物忘れがあるため、大金の所持はお断りをしているが、外商時におやつを購入をしてもらっている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話を設置していつでも電話できるよう支援している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	前庭には花壇を設置し、居間から見える景色が楽しめる。広い居間、パーテーションやソファーを利用してテレビ観賞もゆっくりできる。床材はクッション材を使用し余分な音が響かないよう居心地よく過ごせるよう配慮している。	リビングには観葉植物や書道教室の作品が飾られて広々としている。書き物の好きな入居者のために書斎コーナーも設けてあり、各々が好きなソファで過ごせるようにしている。対面式のキッチンで入居者とホーム職員と一緒に食事の準備をできる様にしている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間が広いので居場所の工夫は十分できている		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分の使い慣れたたんす、仏壇の持ち込みも本人が安心できるよう配慮している。	居室にトイレ、洗面台があり、自分のペースでゆっくりと排泄や整容ができる。使い慣れたタンスや仏壇が置かれ、遺影や家族写真が飾られている。家族が宿泊を希望すれば、居室と一緒に過ごせるように援助している。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立支援の下、浴場には浴場と理解できる暖簾、大きなカレンダー、時計など設置して理解できるよう配慮、工夫している。		